

育児をしながらやってみたWLBと公物管理という仕事

江戸川河川事務所 占用調整課 久本 美有希

1. 育児休業から復帰をして

平成27年4月に江戸川河川事務所占用調整課に異動し、平成27年9月より約1年半の育児休業を経て、平成29年4月、休業前と同じ職場へ復帰をした。自宅から職場や保育園が近いということもあり、勤務時間は通常の8:30~17:15である。

占用調整課では、主に河川法許認可事務を担当している。元々、江戸川河川事務所に来る前に河川管理に携わっていた時期もあり、全く知らない世界に飛び込んだわけでもなく、育休復帰の際には、「まず業務内容に戸惑いながら、一からスタート」という状態ではなく、業務自体にはすぐ取り組めたのではないかと思う。

2. 占用調整課の仕事

まず、占用調整課の主な仕事は「河川法許認可事務」である。そのほかに、境界確定事務や、不法係留船・不法工作物などの不法行為対応、各種協議会事務局運営などがあり、加えてこれらに伴う、外部・事務所内・上部機関との各種調整や打合せ、あとは河川利用などに関する一般の方からの問い合わせの対応であったり…非常に盛りだくさんである。

江戸川河川事務所では、江戸川・利根運河・中川・綾瀬川・坂川などの河川を7出張所・1支所で管理をしており、河川法申請件数は年間500件超である。

私の係では、主に中川・綾瀬川の3出張所管内の各種業務を担当している。平成29年度の申請処理件数は約220件。そのほか、この件数にカウントしない届出受理や、その他境界確定関係を合わせると、単純に起案件数はもっと増える。

3. 仕事への取り組み方

平成29年度の占用調整課では、決められた定時退庁日以外に個人で定時退庁日を指定できるという独自の課内ルールが運用されていた。ただ、私にとっては、育休復帰明けで、保育園に通う子どものお迎えという任務があり、まだ保育園1年目の子にとっても「延長保育」という切り札はなるべく使いたくないこともあって、そのためには、毎日定時退庁を目指していかなければならなかった。

そこで、自分の中で定時退庁を前提とした効率的な業務遂行を心がけることとして、業務前にその日すべきことを頭の中で一度整理し、「絶対今日しなければならないこと」「明日以降でもなんとかなること」の優先順位付けを行い、一日の業務に臨むようにした。

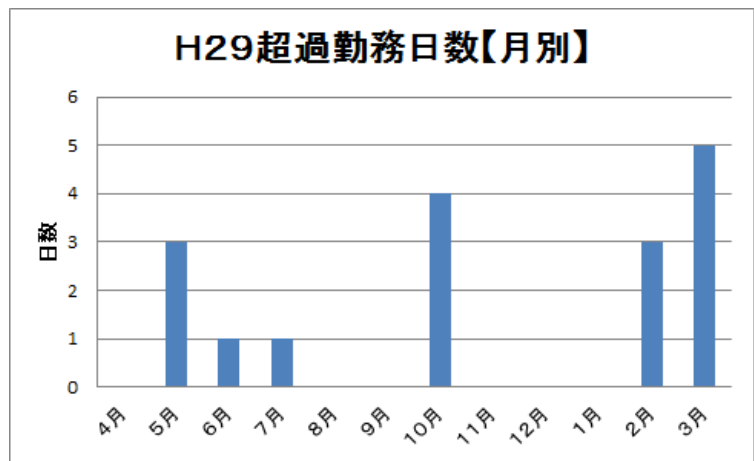
4. 1年間を過ごしてみて

さて、頭の中で整理して、いざ一日の業務のスタートをきったとしても、やはりなかなかうまくいかないこともたくさんあった。「管理」という業務の性格上、急ぎの対応を求められることも多く、一日の最初に考えていた通りに進まないこともあった。

しかし、1年を過ごしてみれば、復帰後1年間の超過勤務をおこなった日数は月平均1.4日だった。もちろん、申請書類の審査が集中する繁忙期や、その他季節的な業務がある場合など、必要に応じて超過勤務をおこなったものの、年間を通してみればわずかだったと言える。

保育園に預けた子どもを時間までにお迎えにいけるよう、計画的な業務配分を常に考え、効率的な処理

を心がけることで、何物にも代えられない『子どもとの時間』を過ごすことができたのではないかと思う。



5. 今後の課題

現在は自宅から職場と保育園が近いということで、その分時間も取りやすい状況であるが、それでもやりたい仕事が全てできたわけではなかった。この1年間は、提出された申請書や問い合わせのあった案件を淡々と処理するというように、おおよそ「来たものを捌いていく」ことがメインだったと思う。

管理の仕事は山ほどある。許認可申請処理や問い合わせ対応のほかにも、日々更新される細かいデータ整理や書類整理、長年懸案となって代々引き継がれている案件など、やるべきことはいくらでもある中で、今年目標としては、まずは「現場に行くこと」である。管理という仕事をする上では、現場の状況を知ることが必要であるし、外に行けば「あれ？」「これは？」というような気になる案件も見え隠れしている。

この1年間は時間の制限と処理を急ぐ案件がある中で優先順位付けをした結果、現場に出ることが後回しになってしまった。問い合わせや打ち合わせにおいても、現場を知っているということで理解も深められ、効率的な業務遂行ができるようになるのではないかと考えている。どんな問題においても、頭の中でイメージできるかできないかは、理解を深める上では大きな違いだと思う。業務の処理をしつつ、さらに現場に出る時間をどのように作っていくかが、今後の課題である。

6. さいごに

この1年間は、完全に周りの方の支えがあってこそこの1年間だった。職場でも家庭でも、理解や協力をしてもらえているところが大きい。これからも周りになるべく迷惑をかけないように、有効な時間の使い方を考えつつ、頑張っていきたい。